<2024年度事業計画書>

【事業方針】

2024 年度、当協会は各本部で計画した事業を着実に実施するとともに、「東京都ローイング協会中期事業計画(2025~2030 を想定)」の立案に着手します。当協会が今後、様々な課題にどう取り組み、どのような協会に進化するべきかを考え、皆様と共有するビジョンが必要と考えるからです。

振り返りますと、2020~21 年にかけて当協会は新型コロナにより多くの機会を損失しました。 その後の22~23 年度は「日常」を取り戻すべく、感染症に留意しつつ一歩一歩着実にできること を積み重ねてまいりました。その結果、各本部は既存事業については安定的に遂行できる力をつ けることができました。

- ・海の森と戸田の両方の会場でレースを開催し当協会の屋台骨を支える競技事業
- ・各水域のボート教室やレガッタを支えローイング人口の底辺拡大を担う普及事業
- ・国体やインターハイなど協会内外からの期待を背負い確実に実績をあげている強化事業
- ・いまや当協会の競漕会や各水域のレガッタに留まらず、(公社)日本ローイング協会主催のレースや地方レースにおいても必要な存在に進化した審判事業

一方で、多くの課題が顕在化している中で、これらを如何に解決していくのか、本格的に取り 組む時機と思料します。

- ・海の森水上競技場をどう活かすか、戸田漕艇場とのハイブリッド利用をどう推進するか
- ・加盟団体の皆様の顧客満足度をあげるために大会や事業をどう進化させなければならないか
- ・(一社)海の森総合型地域スポーツクラブはじめ都内各水域の活動支援、連携強化をどう進めるか
- ・パラローイング、コースタルローイングにどう取り組んでいくか
- ・2027年南関東インターハイの地元競技団体としてどう準備をするか
- ・各本部が抱える諸問題をどう解決していくか
- ・必要な資金、人材をどう確保するか

一例を挙げてもこれだけの課題がある中で、協会各本部間の連携を月次連絡会議(本部長会議)で深めるとともに、必要に応じて委員会の新設や委員会の本部昇格など、組織的に課題に取り組むベースを構築する必要があります。

2024年度、当協会は以下でご説明する事業計画に加え、課題解決に取り組む所存ですので、加盟団体の皆様、東京都・都内各区および各水地域の協会や団体の皆様、(公社)日本ローイング協会・関東漕艇学生連盟ほか関係各位の皆様、そして当協会顧問・理事・常任委員の皆様の更なるご理解ご協力を賜りますようお願いいたします。

続きまして、各本部の事業計画は以下のとおりです。

【各事業計画】

1. 競技開催事業

(1) 競技会開催

以下のとおり、競技会を開催する。

3月30、31日	第 72 回お花見レガッタ	戸田	Ш
	第 33 回東日本中学選手権競漕大会		Щ
6月29日、30日	第9回東日本夏季競漕大会	戸	田
7月27日、28日	第71回東日本選手権競漕大会	戸	田
9月28日、29日	第 47 回東日本新人選手権競漕大会		
	第 20 回スカル選手権競漕大会	戸	田
	第 34 回東日本中学新人選手権競漕大会		

※第73回お花見レガッタは2025年3月29日、30日

(2) 光発艇装置運用

競技本部が主催する全4大会で光発艇装置を使用する。また(公社)日本ローイング協会 が戸田で開催する全大会に同装置を貸し出す。

2. 普及事業

・以下のとおり大会を開催する。

7月28日	第8回東日本マスターズ競漕大会	戸	田
9月28日	第 24 回谷古茂盾争奪マスターズ競漕大会	戸	田
9月29日	第 14 回小学生交流レガッタ	戸	田

・例年どおり、活動を行う。

東墨田 ボート教室 1月~12月 毎月最終日曜日

東大島 ボート教室 4月~10月 毎月第1土曜日

水元 ボート教室 4月~11月 毎月第3土曜日

多摩川、日本橋・神田川は日程未定

3. 強化事業

(1) 以下のとおり予選会を開催する。(高校関係は高体連との共催)

5月12日	国スポ少年チャレンジマッチ	戸	田
5月12日	国スポ成年都予選会	戸	田
6月16日	第72回全国高等学校選手権競漕大会 都予選会	戸	田
10月6日	2024 年度関東高等学校選抜競漕大会 都予選会	戸	田

- (2) 以下の事業を強化事業として実施する。
 - ① 国体候補選手強化事業
 - ② 国体強化遠征
 - ・以下のとおり、国体強化遠征・強化試合を予定する。

3月30、31日	お花見レガッタ	戸田
4月13日	グリーンレガッタ	戸田
4月14日	日立明三大学レガッタ	戸田

4月19~21日	中日本レガッタ	愛知池
5月3~6日	朝日レガッタ	琵琶湖

- (3) 以下の5事業を(公財)東京都体育協会の受託事業として実施する。
 - ○国体候補選手強化事業
 - ○ジュニア選手強化育成事業
 - ○指導者育成事業
 - ○オリンピック候補選手強化事業
 - ○トップアスリート発掘事業

4. 審判事業

- (1) 当協会主催レースへの審判体制の維持 各大会 20 名の審判体制を維持する。
- (2) 当協会所属団体の技量向上

お花見、東日本等、全国規模でクルーが集まる大会については艇計量を実施、これに加 え海の森コースを使用した大会では桟橋監視業務を実施。全日本レベルの監視業務を実 施することにより当協会所属団体の経験値を向上させる。

また競漕規則の説明会を本年も開催し、ルールの周知と所属団体のレベルアップを図る。

(3) C級審判員の新規養成と活動機会増加策

2024 年度も1月と7月にC級審判員試験を実施予定。また人数が集められる場合は随時開催可能であることを所属団体に対し呼びかけを行う。活動機会増加策として、普及本部主催のレガッタへの審判派遣や、当協会所属団体の対校戦について、依頼があり対応可能な場合は受託する。

(4) 強化本部との連携

強化本部が選手を派遣する他協会等の大会については、強化本部とも連携し、先方の審判委員会が許す限り、当協会の審判員を派遣し選手を側面からサポートする。

- (5) 当協会所属審判員の技量向上と安全な大会運営に向けての取り組みについて
 - ①当協会オフシーズン勉強会
 - 2・3・12 月に 3 回実施予定である。
 - ②船舶免許の取得補助の実施

水上安全確保のため主審艇の全レース追航を可能とすべく、船舶免許取得の補助を実施する。

(6) B級審判員への昇格促進

2024 年 B 級試験への挑戦資格を持っている C 級審判員への当協会研修会を実施する。